



305号
2025/7

日中文化交流市民サークル'わんりい'
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195
<http://wanli-san.com/>
Eメール:t_taizan@yahoo.co.jp



過疎の村で頑張ります：大朝駅村は蜀の古道の宿場だった。四川省歴史文化名鎮(18箇所)にも選ばれていた。しかし中国の田舎も過疎化が進み、若者を見なくなった。私が行った時、提灯で飾った軒並みは人気もなく寂しげだった。1軒あった飲食店もなくなってしまったそう。それでも老人たちが頑張って日々暮らしている。

(2025年3月 四川省広元市昭化鎮大朝駅村にて 佐々木健之)

中医薬膳の特徴

(二)、体質や症状に応じた食餌療法

中医では、患者の症状だけでなく、患者の体質をも考慮した食餌療法が基本となります。つまり、人体の生理・病理を理解した上で、その病人に適した食餌療法を施すことが、中医薬膳の重要な特徴の一つです。

1. 体質に応じた食餌療法

中医(漢方医)は、患者の様子を見、呼吸・咳・匂いなどを感じ、患者から体の具合を聴き、脈を取ったり、身体に振れたり(四診法)して患者の体質を見極め、その体質に合った薬や食べ物とを投与します。患者の体質を見極める方法を「弁体」と言い、適切な食餌療法を決定する

ことを「施食」と言います。これは患者の治療ばかりでなく、日常生活の基本的な指針ともなります。

例えば、高齢者が腰や膝がだるくなったり、聴力が低下したりと身体機能が衰えることは自然の現象ですが、体質や生活環境によって、栄養不足になり唇の色が悪かったり、口が乾いたり貧血症状を起こしたり(陰虚)、元気がなく、顔色が青白い、汗が出やすい、食欲がないなどの症状(陽虚)が現れることがあります。中医はこれらを良く見極めて、適切な薬剤を使い、不足な部分を補うのです。

2. 症状に応じた食事

病気の進行過程におけるある段階症状を中医では「証」と言いますが、その状況を見極め、治療するために適切な食事を提供するのが、中医薬膳の基本原則です。

例えば、「風邪」の症状は発熱・悪寒・頭痛・全身痛など様々ですが、中医ではこれらを表面的な症状・「表証」とであるとみなします。中医では同じような症状の風邪でも、発症の原因や患者の体質の違いを見極めて、冷たい風と寒気が原因で引き起こされた疾病・「風寒感冒」であるか、或いは暑くて乾いた気候の中で引き起こされた疾病・「風熱感冒」であるかを知

ることが重要なのです。この違いにより、「体を温めて発汗させる」か、「熱を冷ましながらか発汗させる」かを決定し、それに合った食餌療法を実施するので

す。症状に応じた食餌療法を弁証的に探し出すのが中医の特徴です。先に挙げた風邪のように、同じ病気でも、原因や症状が違えば、違う治療法を考え、違う病

気でも、症状が同じようだと、逆に同じ治療法が行われることもあるのです。つまり、同じ病気でも異なる食餌療法を摂る時は「同病異食」、異なる病気でも同じ治療法が行われる時は「異病同食」と称し、症状に応じた治療という特徴を大切にしています。

例えば、「同病異食」の場合、夏に罹った風邪は「暑さと湿気

(暑湿)」が原因のため、食餌療法では「芳香化湿(香りがあり湿気が取れる)」な食材を使います。一方「異病同食」の例として、慢性的な下痢による脱肛と胃下垂などの異なる病気であっても、「体の中心の気が下に落ちる(中気下陷)」という同じ症状がみられる場合、「中気を上昇させる(昇提中気)」食餌療法を採用

~~~~~

## 歴史に名を残る中国の名医たち(1)

## 1. 扁鵲

扁鵲(紀元前 5 世紀)は古代中国を代表する名医で、「四診(望、聞、問、切)法」の確立や予防医学の提唱で知られます。薬膳分野でも先駆的な役割を果たし、『史記』には「食事で病根を断つ」という記述が残されています。季節や体質に応じた食材の組み合わせを重視し、例えば「冷えには生姜」「虚弱には山薬(ヤマイモ)」を推奨。現代の薬膳理論の基盤となる「医食同源」の思想を実践的に示しました。特に「未病を治す」という考え方は、病気予防のための日常的な食養生へと発展。日本では江戸時代の医書『本朝食鑑』にその影響がみられ、味噌や梅干しを使った養生法に継承されています。

## 鄭州・安陽の一人旅 (つづき 5)

文と写真＝村上直樹

去る(2025年)5月16日から23日まで北京を旅行した。今回はじめて北京首都国際機場(空港)ではなく北京大興国際空港を利用した。大興空港は北京市街地の南に位置し、2019年9月に開港した新しい空港である。北京市街地へのアクセスとして地下鉄大興機場線がある。途中停車は1駅。20分ほどで高速道路環状三号線近くの「草橋」駅に入り他の線に繋がる(運賃は35元＝約700円)。ここまで来れば公共機関を利用してどこに行くのも便利である。

昨今、空港内にちょっとした観光施設があるのはごく普通だが、この大興空港には出国手続きが全て済んだ後の出発ロビー内に軽食店、免税店などと並んで「中国園」という庭園がある。ドアの外に出ると、もちろん周りは建物で囲まれているものの、完全に屋外で一瞬空港内に居ることを忘れさせる少し不思議な空間である(下写真参照)。

ところで前月号の「雑感」で書いたように、私は昨年訪れた河南省安陽市の「中国文字博物館」で、「殷墟」以外に山東省済南市の「大辛庄」にも商代遺跡があり、甲骨文字も発見されていることを知った。そこで今回の北京旅行中に高速鉄道を利用して山東省済南市まで日帰り観光を試みた。400キロメートルほど離れているが、最高時速300キロ超の高速鉄道を利用すると「北京南」駅から「済南西」駅まで約1時間40分で着いた。

実は、事前に見つけたネット情報により、この「大

辛庄」の商代遺跡については、現在、正に大規模な整備が進んでおり、大辛庄考古遺跡公園内の博物館もほぼ完成してまもなく開館する、ということが分かっていた(2023年2月18日付『地図時光機』)。開館前で残念だが、せめて外から様子だけでも知りたいと思い、地下鉄3号線の「八潤堡」駅で降りて周囲を見渡したが現地を確認することすらできなかった。まことに不徳の致すところである。

さて、話は2024年11月28日の「安陽曹操高陵遺跡博物館」に戻る。「雑感」前月号のつづきである。曹操が当地に埋葬されたのは建安25年(西暦220年)2月のことである。その後、黄初3年(同222年)になって曹丕が、儉約を実践していた曹操の遺志に従って「毀高陵祭殿詔」を発し、高陵の地上にあった建造物を取り壊してしまった。その結果、高陵の所在は歴史の謎に包まれることになる。発掘調査の結果その謎が解け、高陵が再び姿を現したのが2009年12月である。

博物館には高陵周辺から出土した文物が展示されていた。その多くは宋元期の陶磁器である。展示の解説によると、その品質は高くなく庶民の実用品であったと考えられる。そのことから、地上の建造物を取り去った後の高陵遺跡周辺は社会活動が行われる公共スペースであったと推測されている。

展示全体を通じて、羅貫中著『三国志演義』では悪役の代表として描かれている曹操が、実は、1954年北戴河における毛沢東の講話にもあるように、傑出した政治家、軍事家、詩人であったことがわかる。北方を統一して魏国を打ち建て、後漢の悪政を正す改革を実施して、地域を安定・発展させた。正史『三国志』の著者・陳寿をはじめ、魯迅、郭沫若など多くの歴史家、文学者等による曹操の人柄・業績を賞賛する言説の数々も紹介されていた。

出口付近には「袁(こん)雪(せつ)」の2文字の拓本体験コーナーがあった。この2文字は唯一現存する曹操の自筆跡と言われている(次ページ写真参照)。拓本の元となったのは陝西省漢中市の石門隧道にあって



北京大興空港の「中国園」(2025年5月撮影)





「安陽曹操高陵遺跡博物館」にて(2024年11月撮影)

た摩崖石刻、いわゆる「石門十三品」の一つである。実物は 1970 年に石門ダム建設に伴って「漢中市博物館」に移され、所蔵されている。建安 24 年(西暦 219 年)劉備との攻防を繰り返す中で、この地のまるで雪のように水しぶきを上げる流れに感じて揮毫したと言われている。従者が何故サンズイ偏がないのかと尋ねると(本来は「滾(たぎ)」る、が相応しいと考えられる)、曹操は「滾滾江水、哪差這三滴？何須画蛇添足！」(トウトウと流れる川の水、3つの水滴などどうでもよいではないか？何で画蛇添足の必要があろう！)と笑って答えたと言われている(同コーナーの説明板による)。因みに、拓本体験料金は 15 元(約 300 円)であった。

ただし、広く知られているこの逸話を巡っては楊立新氏が『人民日報』(海外版)の連載「漢字故事」の中で懐疑的な見方を示している(2016 年 11 月 15 日付)。すでに 2020 年 11 月号の「雑感」でも紹介したが、それは次のような主張である。上述の解釈によると曹操はもともと文字遊びを好み、わざと書き違えたということになる。楊氏はこの解釈を作り話であろうと説く。なぜなら、漢魏時代には「滾」という漢字はまだ存在せず、「衰」は初文(生まれた当初の字形)であって、その後も両者はいわゆる古今字の対をなしていて、どちらも通用したそうである。

さらに、石門隧道の「衰雪」自体、曹操の筆になるものでなく後世の作である可能性が極めて高いという。その理由はまず、その字体と当時使われていた字体が異なるからである。曹操によるとされる「衰雪」の字体は一見隸書のように見えて、実は楷書に近い。楷書に慣れた人によって書かれた隸書である。そして、曹操の時代には楷書はまだ確立されていなかった。2 番目の理



安陽東駅の構内にて(2024年11月撮影)

由としては、左端にある「魏王」の署名は後から彫られた痕跡がある点があげられている。楊氏によるこの説はその後どう評価されているのか、不勉強な私にはわからない。

翌 11 月 29 日は鄭州市内に戻るため、朝 9 時前に「安陽東」駅に行く。駅構内に大きなモニュメントがあった(上写真参照)。右上に赤い字で「紅旗渠」と書かれている。この「紅旗渠」(紅旗水路)とは渇水に苦しんでいた林県(現在の安陽市林州市)の民衆が太行山の絶壁を削って建設した全長 70.6 キロメートルの水路である。1960 年から苦節 10 年に亘る建設期間中、30 万人が参加した。その建設にかけた地元民の情熱と献身的努力は「紅旗渠精神」として今に語り継がれている。「紅旗渠」は「人工天河」(人工天の川)と称され、また、周恩来はこれを南京長江大橋と並ぶ新中国の二大奇跡として、海外の友人に自慢していた(『紅色中原』2019 年、大象出版社)。現在では国家 5A 級の観光名所に指定されている。今回、時間がなく実際見学できなかったことを惜しみつつ、「北京西」発、「福田」(広東省深圳市)行き的高速列車に乗り、所要時間 50 分ほどで「鄭州東」駅に到着した。その日は一晩鄭州で泊まり、翌 30 日の朝 8:00 すぎに新鄭空港を飛び立って約 3 時間 20 分後、成田空港に帰国した。

気がつくとなすでに 7 か月も前のことになってしまいましたが、最近の河南省の様子をお伝えできたところで、2020 年 4 月号以来続けて参りましたこの「河南省或いは『中原』雑感」も終着といたしたく存じます。『わんりい』読者の皆様には約 5 年間に亘ってお付き合いいただき誠にありがとうございました。(完)

## ≡ 晩秋のカラコルムにて (6) ≡

吉光 清

6月12日付けの毎日新聞は「新種のティラノサウルス発見」という記事を載せていた。北海道大とカナダ・カルガリー大などの国際研究チームが英科学誌「ネイチャー」に発表した内容は『約50年前にモンゴルの白亜紀後期(約9000万年前)の地層から発見され、仮分類されていた化石が新種と判明し、全長約4メートル、体重500キロ未満の細身の肉食恐竜「カンクウルウ」と命名された』というものであった。

映画ですっかりお馴染みになった、体重数トンに及ぶ北米の「ティラノサウルス・レックス(T-レックス)」や、アジアで陸上生態系の頂点に君臨していた「タルボサウルス」のような大型ティラノサウルス類の共通祖先に当たり、「進化の空白」を穴埋めする成果だということらしい。

旅行ガイドブックによれば、モンゴルは世界でもトップレベルの恐竜化石の産出国で、モンゴル南部から中国北部に広がる極度に乾燥した「ゴビ砂漠」に分布する、中生代(今から2億~6600万年前)の地層からは多くの恐竜化石が発見されている。

恐竜化石を含む地層は、当時の河川や湖、砂漠で溜まった砂岩や泥岩から成っていて、かつてはシベリア西部まで広がっていた北極海から湿潤な空気が流れ込み、現在は南に聳えているヒマラヤ山脈は未だ存在せず、インド大陸も遥か南方の海に在った(陸続きでなく)ので、海にも近く、大型恐竜たちを始め、翼竜、鳥、ワニ、亀、魚、原始的な哺乳類、昆虫、植物などの生き物の生息を可能にした、多様な自然環境があったことを意味するという。

モンゴル国内の恐竜化石の主な産出地を地図で見ると、ウランバートルから近いところで350キロ、遠いところで500キロくらい離れている。勿論、過酷な気候条件に加え、旅行者向けの施設は無く、到底、旅行者が寄り道出来るような場所ではない。

### ■「大講堂(ラブラン・ゾー)」の中へ

「大講堂」へ続く歩道には、石畳の両側に低いながらも赤色の柵が設けられ、四方八方から「大講堂」への通路に入り込むことが出来ないようになっている。大勢の人が参集する場合にも整然と行列しなけ



「大講堂」を擁する「ラブラン・ゾー」

ればならないようになっている。

ガイドブックには「大講堂」と記されていたが、此の(大講堂を擁する)チベット式寺院の名称は「ラブラン・ゾー」と言い、「ゴルバン・ゾー」とともに人民政府時代の破壊を辛うじて免れたらしい。

建物に入ると、読経が聞こえ、線香の煙が香って来た。屋内には思ったより大勢の人々がいた。一段、高い場所で僧侶が読経中であつた。目を惹いたのは、奥に陳列されていた、さまざまな形、色鮮やかな仏具類であつた。圧倒的な種類と物量に一瞬、ここは仏具の販売所かと思つたほどだつた。

場所柄のためか、怖い顔の僧侶が見ていたせいか、写真を撮ろうとしている観光客は皆無だつた。

アレッと思つたのは、僧侶から布に包まれた長い棒状の物を受け取り、それを胸の前に捧げ持って外へ出てゆく人々が居たことである。ガイドさんに訊くと、それはお経の包みで、そのようにして寺院内を一周して戻ると、マニ車を回すと同様に、そのお経を唱えたことになるということであつた。

種類豊富な仏具類を見て外へ出ようとしたら、お経を捧げ持って寺院内を一周して来たらしい人々とすれ違った。

### ■「亀石」の丘からの眺め

寺院内に入って来た時の門から出て駐車場に戻り、車で運河を渡り返して、西の方角にある小高い丘を目指した。草に覆われた丘の上に「亀石」があるのだと言う。道は無く、轍の跡は土がむき出しになり、





白く浮かぶ「エルデネ・ゾー」の外壁線と「世界遺産エンブレム」の標柱(右下)

降雨の度に深い溝になるようだ。車は崩落した溝を避けながら、草の上に新しい轍を残しながら登った。

10分余り登って丘の頂上に着いた。此处からは「エルデネ・ゾー」の全体を俯瞰することが出来る。白いストーパーが外壁の上に等間隔に安置されているので、くすんだ色の風景の中で、寺院の正方形の区画をくっきりと浮かび上がらせている。左奥にはハラホリンの市街地も見えている。

周囲を見渡すと、世界遺産を示すユネスコの標柱が建ち、傍らの説明盤にはモンゴル語と英語の説明文が併記されている。異なった文字体系による二つの文章を比べると、「40×30×180」の数字の位置が大きく異なり、文法の違いを示していて面白い。

キリル文字を読める筈も無いので(ただし、モンゴル語はキリル文字を使用するが、ロシア語とは単語も文法も異なるそうだ)、英語の説明文を読んだ。以下のようなことを記していた。

“「40×30×180 センチ」の花崗岩製の 63 本の標柱が、世界文化遺産の「オルホン渓谷の文化的景観」の保護地域の境界に沿って建っている。標柱の前面には世界遺産のエンブレム、背面には保護地域の地図が記されている”、“エンブレムは文化資産と自然資産が相互に依存していることを象徴している。中央

の正方形は人類の創造による象形であり、円は自然を表わし、二つは密接に結ばれている。エンブレム全体は地球のように丸い形で、同時に、保護を表わすシンボルである”

ガイドブックに拠れば、オルホン川兩岸の渓谷には、8 世紀、突厥の王によって建てられた「オルホン碑文(世界最古級の遊牧民文字:突厥文字)」を始めとして、かつての王国の都や寺院が点在し、2000 年以上にわたる遊牧民文化の歴史が残され、「オルホン渓谷の文化的景観」として、2004 年に

世界文化遺産に登録されている。

### ■亀石と馬の頭蓋骨

金属製の柵に囲まれて、石造りの亀が石碑を載せて鎮座している。モンゴルでは良く見られるらしい。「砂漠に亀?」と思ってしまうが、亀はゴビ砂漠から出土する動物の化石にも含まれている。

ガイドブックに拠れば、「亀趺」ともいい、中国から伝えられて「突厥<sup>とっけつ</sup>」やウイグル時代から製作されていたという。ハラホリン市内には、3 体の亀石があり、保護・復元されているが、ハラホリン郊外の 1 体は作製途中で放置されたままだとのことである。王都の守護を願ったものだったのだろうか?

日本でも亀は長寿や不動の象徴とされ、江戸時代の大名のお墓には、亀の形をした台座の上に墓石が建てられた「亀趺墓」も見うけられる。

近くに、動物の骨が積み上げられていて、ガイドさんに拠れば、それらは(畜肉用の馬ではなく)競走馬の頭蓋骨だということであった。競走馬はモンゴルの人々にとって特別な存在で、丹精込めて飼育される。競技に勝利すれば飼い主は富と名声を手に入れることが出来る。勝利した馬は称賛され、高値が付けられ、大事にされる。これらの骨は競争馬としての

活躍を終えた馬たちが、死後に打ち捨てられたということではなく、遊牧民に伝統的だった「風葬」の習慣に照らすと、むしろ、敬慕の念を以て懇ろに葬られているということらしい。

(つづく)

### ●資料:

・「地球の歩き方 モンゴル」(2024 年～2025 年版) 株式会社 地球の歩き方



丘の上にあった「亀石」



競走馬の頭蓋骨の山

# 梁 祝 の 話

訳：一瀬靖子／大槻一枝

その昔、キジやキジバトなどの羽は皆白く、燕は樹上に巣をかけ、孔雀は今のように美しい尾を持ってはいなかった。我々が今見るキジの羽は麻色に変わり、キジバトも灰色になっている。燕は家の梁に巣を作るようになり、孔雀は長く美しい尾を持つようになった。この変化には、次のような物語がある。

~~~~~

梁山伯と祝英台は、杭州市にある同じ学び舎で勉学に励んだ仲であった。二人は学び舎に行く道中一緒に仲良くなった。そして三年間共に学んだが、ある日、祝英台の父親から「すぐ帰れ！」という手紙が来た。父の言葉に背くわけにはいかず、同窓の梁山伯との別れを惜しみながら帰郷した。梁は英台を遠方まで見送り、また杭州の学び舎に戻った。その時初めて師母（先生の奥さん）から祝英台が女性であることを知らされ、驚き、また喜んだ。思えば、別れ際に英台は「九妹（九番目の妹）と婚約する」と告げていたが、その九番目の妹とは彼女自身のことと思いついた。梁山伯は、先生や師母に暇乞いし、帰郷を口実に祝英台の後を追った。

梁山伯は山を越え、峰を越え、川を渡ってまっしぐらに彼女の故郷を目指した。しばらく行くと山の麓に出た。萱草の茂る道端に白いキジバトがいるのを見つけ、問いかけた。「キジバト君、キジバト君。お尋ねしますが、書生がここを通り過ぎるのを見ませんでしたか？ また通り過ぎてどのくらい経ちますか？」

キジバトはクー、クーと鳴きながら、「すみません、若旦那。私は見ていません」

梁山伯はこれを聞くと腹を立て、自分の麻の外套をキジバトに向かって投げつけた。キジバトは麻の外套を被ったまま飛び立った。こうしてキジバトは麻色になってしまったという。

梁はまた足を速めた。平地へやってくると、田の畔で泥を口に含んだ燕の群れに出会った。彼は傍らにより、声を低くして遠慮がちに、

「燕のお嬢さん、燕のお嬢さん、教えてください。



梁山伯與祝英台 司徒佩韋 連環画出版社

書生が通り過ぎるのを見ませんでしたか？ 彼が通ってどのくらい経ちますか？」

燕は口に含んだ巣作り用の泥を吐き出し、もぐもぐと言った。

「ごめんなさい旦那様、私たち巣作りに夢中で、誰も見かけませんでした。」

梁山伯はじろりと燕を睨み、石を拾って燕に投げつけた。燕は魂が飛び散るほどに驚き、この後は野外に巣を作らず、人家の梁に作り、住人に守って貰うようになった。

梁山伯は次第に気が急ぎ始めた。しばらくすると小さな川のほとりに出た。川辺の砂浜で二羽の孔雀が短い尾を振りながら餌をついばんでいた。梁山伯は急いで孔雀に駆け寄り、物腰も柔らかに、

「孔雀さん、孔雀さん、どうぞ教えてください。ここを書生が通り過ぎるのを見ませんでしたか？ 通り過ぎてどのくらいでしょう？」

二羽の孔雀は同時に頭を上げ、梁山伯を見ると親切に、

「半日ほど前、書生がここを通り過ぎました。とても賢そうな書生さんでした！ お急ぎなさい、きっと追いつきますよ！」

梁山伯はこれを聞いてとても喜び、急いで着ていた花袍（美しい刺繍の長衣）を脱ぎ、そっと孔雀に被せて言った。「ありがとう。あなた方の長寿をお祈り

します！」

孔雀は礼服を被せられた。その服は大きく、孔雀が着ると長々と引きずった。その後、孔雀は美しい羽毛と長い尾を持つようになったという。

心あらば千里の道も遠からず、心あらざれば数歩も煩わしい。梁山伯は二日間歩き通し、なお早く歩きたいと思って道端の竹林の竹を折り、これを杖にして歩いた。歩調が軽快になった。速足で歩くと精力を費やし汗も多く流れる。汗は梁山伯の衣服を濡らし、靴や靴下まで沁み通った。手にした竹の杖にも汗が滲む。

やっと祝英台の家にたどり着いた。梁山伯は休もうともせず、竹の杖を門前の土に差し込み、家に入って英台との再会を喜び合ったのである。

一か月余り過ぎると、梁山伯が祝家の門前に挿した竹杖

は、何と若い芽を出し、竹の色も緑色から黒色に変わった。後に人々はこの黒い竹を胡弓の弓として使った。これ以降、胡弓の音色は、母弦が出す音は“梁”のように聞こえ、子弦が出す音は“祝”のように聞こえるという。今でも皆は言う。胡弓の最初の音は“梁祝”の音だと。 劉燕鴻、王美新〔収集・整理〕

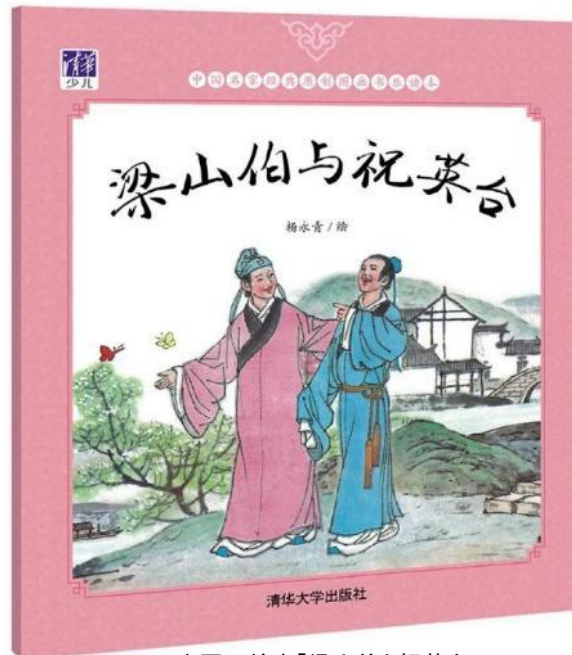
〈参考1〉

皆さんは、この民話を読むと、「梁山伯と祝英台」の民話を思い浮かべるでしょう。この民話は中国四大伝説の一つに数えられていますが、古くから人々に親しまれ、芝居・映画・音楽・絵画など中国文化に強い影響を与えています。物語の内容はいくつかのストーリーがあるようですが、一般的なあらすじは、以下のようなものです。三年間二人が仲良く勉強に励んでいた時、家から「すぐ帰れ！」の手紙が届きます。

実は父親が英台に高官の息子と結婚させるためだったのです。親の命令に背くわけにもいかず、家に帰った英台は父に「自分は梁山伯という思いを寄せる人がいる」と言いましたが、彼の家は家柄もよくない上に貧乏ということで許してくれなかったのです。一方梁は約束通り英台の家に行きましたが、父親がど

うしても結婚を許してくれないことがわかり、悲嘆のあまり重い病気になりあっという間に亡くなったのです。英台は梁の死の知らせを聞くと三日三晩泣き明かした後、四日目の朝、泣くのをやめて父親に「私の願いを一つだけお聞きください。そうしたら私は

高官の息子と結婚します。結婚式の朝、私が乗った輿は必ず梁山伯の墓前を通ってください。」と言いました。父親はしぶしぶ娘の願いを許しました。婚礼の当日、花嫁の輿が墓前に来ると、英台は輿から下りて墓前で激しく泣き出したのです。すると、突然お墓に大きな裂け目が出来、彼女はあっという間にその裂け目に吸い込まれ、お墓は何もなかったかのように元通りになりました。まもなくお墓の周り是一片の花園になり、その花の間を、二羽の色鮮やかな蝶が楽しそうに飛び交っていた、という物語です。



中国の絵本「梁山伯と祝英台」
(清華大学出版社, 2017)

〈参考2〉

〈参考1〉のお話「梁山伯と祝英台」は中国の四大伝説の一つとして有名ですが、他の三つはどんな話かご存知でしょうか？

四大伝説とは民間に言い伝えられている男女間の愛情を主題とした物語で、一般に「孟姜女」、「牛郎と織女」、「白蛇伝」、「梁山伯と祝英台」の4編を指します。

「孟姜女」は秦朝の社会状況を背景に物語が展開します。お話は皆さんご存知の通り、孟姜女が夫を追って賦役の現場に到着した時すでに遅く、夫は死んで長城に埋め込まれていましたが、事実を知った孟姜女の泣き叫ぶ声で、完成したばかりの長城の一部が崩れ、夫の遺体が現れる物語ですね。「牛郎と織女」は、後漢の時代に神話から発展した物語で、日本では七夕のお話として知られています。「白蛇伝」は、南宋時代に発達した講談の種本を基に、明代に纏められたようです。

どれも男女の愛情を描き、人々に好まれ、長く民間に伝えられて来たものですが、中でも「梁山伯と祝英台」は「梁祝」と呼ばれ、派生の物語が多いことで知られています。丁度、弘法大師に係わる事例が日本各地で語られているのと同じような現象だと思われます。

私の心に残る旅⑨ーシルクロードの探検（その2）

樊 婷婷 (fán tíng tíng)

4月27日（3日目）

旅の3日目はトルファンでの観光です。朝8時半に一行は観光バスに乗ってトルファンに向かいました。ウルムチからトルファンまで約250キロで、3時間ぐらいかかりました。道路は真っ直ぐで、両側にあるポプラの街路樹の新緑は日に輝き、所々に見える白い風車は風に任せて悠々と回っていて、とてものかな風景です。時々「ほら、左側に蜃気楼が見えますよ」、「あっ、危ない！道路の真中を羊の群れが歩いています」とあちこちから皆さんの興奮したような声が聞こえます。

11時30分頃トルファンに着きました。トルファンの住民の大半はウイグル人で、モスクのあるイスラム建築、シシカバブの煙、彫りの深い顔立ちが印象的でした。私たちは市内から南東へ48kmにある高昌古城を見学しました。これは499年に漢人の麴嘉氏によって建てられ、政治、文化の中心となって繁栄しましたが、640年に唐（618～907）により滅ぼされました。当時の王宮や城壁はすべて風化し、今は痕跡だけ残しています。荒涼たる跡地を歩きながら、630年に玄奘三蔵（602～664）はインドへ向かう途中、麴嘉氏の厚いもてなしを受け、お礼に約1カ月ここで仏教の講義をしましたが、三蔵の帰国時には高昌国（460～640）は既に無くなっていたことを思い出し、世の儚さを感じました。

玄奘三蔵の話が出ますと、ついでに高昌古城の入りに口で真正面に見える火焰山をご紹介します。これは500mぐらいの砂岩の山で、気温の高くなる夏になると赤い山肌がゆらめく炎のように見えることから「火焰山」と呼ばれています。三蔵法師と孫悟空の一行は火炎にはばまれ、孫悟空が鉄扇公主と戦って芭蕉扇で炎を消し、土地を緑野に変えたという「西遊記」の一節はこの火焰山を舞台にしています。一度見たら忘れられない光景でした。

高昌古城を後にして、一行は古城の北西13kmにある高昌国の貴族のお墓であるアスターナ古墳を見ました。アスターナはウイグル語で「首都」の意味

で、そこには500基の墓があり、一部が公開されて、私たちは代表的な3か所を見学しました。墓室の壁面に壁



顔の一部が失われた壁画(ウィキペディアより)

画が残り、ミイラも安置されています。この地域で亡くなった人は全部ミイラになるのかなと思ったりしました。

それから、私たちは火焰山北麓の河の断崖に掘られたベゼクリク千仏洞に向かいました。ベゼクリクはウイグル語で「装飾された家」の意味で、そこは6～14世紀にかけて造られた石窟寺院です。現在、石窟は83あり、壁画窟は20ありますが、偶像崇拜を禁止するムスリムによって破壊されたり、外国の探検隊によって精緻な仏画の描かれた壁面がそっくり持ち去られたり、地域住民によって破壊されている場合もあり、きれいに保存されているものは殆どありません。非常に悔しいし、心が痛みました。どうしてこんなことをするのでしょうか！自分たちの目先の利益のためでしょうか、文化財は人類共通の遺産として保護されるべきで、また、そこにあるからこそ光り輝くのではないのでしょうか。

午後、私たちはカレーズ博物館を訪問しました。1500本もあるカレーズを利用した自然博物館です。トルファンで一番、私を感動させたのはこのカレーズです。カレーズとは天山山脈の伏流水をオアシスに引く地下水路のことで、今でも使用されています。高さ1.5m、幅60cm、長さ3～4kmのものが多くありますが、中には10数kmに及ぶものもあります。全部で5000kmにも及ぶそうです。万里の長城、京杭大運河と並ぶ「古代三大土木工事」と言われています。ガイドさんの説明を聞きながら、いろいろ見学しましたが、地下での工事のため、非常に難しい、高い技

術力が必要な工事です。古代の人は本当に偉いものだと感じました。

トルファンからウルムチに戻る途中、夕日を観賞する名所である紅山に寄りました。100mくらいの山ですが、少し赤色の岩膚が露出していて、ここに夕日が当たると非常にきれいだそうです。あいにく曇りで、夕日は見られませんでした。が、「同心鎖」の場所を見ました。恋人同士や夫婦同士は「一心同体」を表すために、鎖に大きな鍵をつけます。日本でも「恋人岬」がありますが、おそらく世界中どこでも結婚する時は、みな「二人で力を合わせて幸せに生活していこう」と思いますね。ところで、もし離婚した場合、鍵を外すために、此処に又、来なければならないのでしょうか？ 世の中のすべての恋人はみな「白頭偕老」（共に白髪になるまで添いとげる）であるように心の中で祈りました。

この日、歴史を肌で感じ、物語の舞台となった場所を目のあたりにし、素晴らしい古代の土木工事に感嘆し、行くところ行くところ驚きの連続でした。

4月28日（4日目）

4日目はウルムチから東へ120kmの所にある天池の見学です。朝、8時に出発しました。道路はあまり整備されていないし、特に山道は凸凹で、工事もやっ



「天池」と「ボゴダ山」(ウィキペディアより)

ているので、朝ご飯を吐き戻してしまうほどバスが左右に揺れたり、座席から飛び上が

ったりしました。バスは走るといふより、踊っているようです。11時30分にやっと目的地に着きました。

「天池」は天山山脈・ボゴダ山（5445m）の北麓にある湖で、「神の池」「天の鏡」と呼ばれるほど湖水が非常に青く澄んでいます。伝説では西王母が鏡に使った湖だそうです。このあたりの標高は1980mあり、湖面は4.9km²、最も深い所で105mです。

4月末ですが、まだ大変寒くて、雪と氷が大部残っています。ウルムチもトルファンもそうですが、朝晩と昼間の温度差が非常に大きく、30度の差となる時よくあります。

湖畔にはパオ（騎馬民族の住むテント）がたくさんあり、私たちも一軒を訪問し、お菓子やミルクティ（羊乳）をご馳走になり、写真を撮りました。パオは観光用ですが、ウイグル族の生活については少しイメージができました。Z社長の差し入れの焼きたてのシシカバブ（串ざしとなった焼き羊肉）に舌鼓をうちました。

夕方19時24分発の夜行列車で敦煌へ移動しました。列車の駅は利用者が多いため、いつも混雑するそうなので、私たちも2時間前に駅に着きました。駅には日本のようにエレベーターやエスカレーターがあまり無く、荷物を階段の上や階段の下へ運ぶのは全部人力なので、Z社長は一人で大活躍でした。

1時間ぐらいごたごたして、やっと列車に乗りました。4人1室のグリーン車の寝台車で（中国語で「軟臥車」と言います）、かなり快適です。列車の食堂での夕飯なので、車窓から夕日に赤く染められた雄大な砂漠を見ながら、のんびりとビールや紹興酒を飲みました。時間を気にせず、優雅にお酒を味わうのは私には普段あまりないことです。料理も豊富で、10品以上出してくれ、美味しかったです。

敦煌まで9時間かかりますので、ゆっくり車窓から夜景でも見ようと思ったら、さすがに砂漠地域なので、外は真っ暗で、何も見えませんでした。多分何も無いでしょう。列車の揺れで、まもなく夢の世界に入りました。

目が醒めたのは朝4時30分でした。“あっ、いけない！4時31分に下車駅の柳園駅に到着予定だ”と思い出し、急いで列車の乗務員に“なぜ頼んだ4時のモーニングコールをしてくれなかったのか”と訊いたら、列車が遅れて5時に到着になるので、モーニングコールをしなかったとの返事でした。日本では考えられないでしょう。もし、目が醒めないと、そのまま終点の西安まで行ってしまうでしょう。本当に暢気で、いい加減な乗務員ですね。

列車は遅れて5時15分に柳園駅に到着しました。敦煌出身の現地ガイドの王さんが夜中3時半に駅に着き、寒さの中で約2時間も待っていたそうです。

一行はバスに乗り、敦煌に向いました。とりあえず、私たちはホテルに着き、先ずシャワーを浴びて、暫らく休んでから莫高窟を見学することにしました。

3月16日、名月峡公園からバスで「蜀の古道」の成都側の要衝である「昭化鎮」の公共駐車場に到着。午後4時頃であった。

「昭化」という地名は知らなかった。百度によれば「国家4A級旅游景区」になっている。そして四川省で選ばれた「歴史文化名鎮18箇所」にも入っている。歴史のある街で、紀元前3世紀ごろからすでにある鎮で三国時代は劉備も駐屯していたという。意外にも車で宿に乗り付けはできなかった。市街地は自動車は禁止で、外来用の駐車場がある。駐車場から、荷物を持って宿まで5分ほど歩いた。

清代の街並みが残ってるというが、建物すべてが歴史的な民家ではないだろう。住宅や商店を新規に建てる時に「古鎮」にふさわしい家並みにそろえて再現したと思う。

「昭化」の中心部は木造の商店街で、中国古鎮らしい渋みがあって、一時代前に戻ったような雰囲気があった。

昭化古鎮の内の道路と外部車道との境に、鉄パイプを地べたに置いた車止めがあって、一般車は入れないようになっていた。古鎮の中ではほとんど車は見ないが、時に住人の車らしい、軽トラのような車両が行き来していた。

日本の「城」はお殿様がお住まいのところだが、ご存知のように中国の「城」は街全体を城壁で囲った単位を「城」という。歴史的な「城」は古城や古鎮として、中国でも観光の対象となっている。

しかし、中国にはたくさんの造られた「人工古鎮」がある。歴史的、文化的背景もなく、観光目当てであ



ライトアップされた臨清門と、道路に投影した文字。

ちこちに建てられた。日本各地にある江戸村の中国版だ。どれも似たような人工古鎮は人々に飽きられてしまい、ゴーストタウンとなっているらしい。

人工古鎮には騙されないぞと、注意しながら街並みを見渡したが、昭化には歴史的、文化的背景があるためか、建物に違和感はなかった。

宿は中心部にある「葭萌駅酒店」。葭萌とは昭化の古称で、「駅」とは昔の宿場のことだ。2020年開業で木造二階建て、客室36の洒落た宿だった。

部屋に荷物を置いて、ぶらぶら歩きに出る。古鎮らしい二階建ての商家が軒を並べている。道は狭い。売っているものは、使途不明な乾物や手工芸品、菓子類など。飲食店や、飲み物を売っている店もあった。車が通らないので、落ち着いて見て歩きができた。

黒キクラゲの産地なのか、多くの店の最前列に小箱入計り売りのものが置いてある。4段階くらいの等級わけになっていた。百度で調べるとキクラゲは隣の県、青川県の特産品のような。昭化鎮で売っている



道路際に建てられた展望台から見た、嘉陵江と昭化鎮(湾曲部のところ)を望む。風水的に良い場所だそう



昭化鎮の中心街。正面は「瞻鳳門」で、城楼に立つと対面の鳳凰山にいる鳳凰が見えので名付けた、とは説明板文(日本語あり)。



「魯家大院」という名の民家の門。優秀歴史建築の表示があった。

のがそうなのかは解らないが、「青川黒木耳、四川省青川県特産」だそうで「中国国家地理標志産品」とかに認定されている。

脇道に入ると、商店はなくなって民家が多くなる。民家の中に伝統的民家として認定された、古民家が何件か有った。立派な門構えの民家があり、門の左右に「広元市歴史建築」、「昭化古城紅色革命遺址群」など書いた公示板が貼ってあった。ただし人が住んでいる気配はなかった。2008年の四川大地震で昭化も被害甚大だったようだが、修復されたのか、地震による家屋損傷の形跡はなかった。

そろそろ夕食の頃となり宿へ戻る。

夕食はホテルの中だった。食後、ガイド姐が「この通りは夜景が綺麗」と言っていたところへ行ってみた。夜店が並んでいるのではなくて、文字入りのスポットライトが地面を照射する仕組みだった。通りに人気がないので少し物悲しい。

翌3月17日朝まだ暗いうちから、散策に出た。小さな町なので、把握しやすい。それでも昼間と暗い早朝では街の景色が違って、迷いそうになる。まず、街の直ぐ側を流れている嘉陵江を見に行った。街を出るとすぐ畑が続く、その先が嘉陵江だった。河原には



「昭化漢城博物館」の東漢牽馬俑。東漢とは後漢の異称とのこと。（東漢の説明は「goo辞書」）



葭萌幼稚園の入口脇に掲示した職員一覧写真。左が管理職

菜の花がそこかしこに咲いていた。そのあとは、「臨清門」まで行き、公安すなわち警察署と、消防署、幼稚園と見て回った。どの建物も、街の景観に合うような古鎮風の建物だった。幼稚園の前面には職員一同の顔写真が貼ってあった。管理職が王園長以下8人、一般職員が18人。よくわからないのは、「教師」と「保育員」という区別があり、違いはなにか？そして、給食の職員2人、総勢26人の写真は門の横に大きく貼ってあった。感心して見ているとオートバイに乗った女性が登場。門の中から現れた、職員に付き添われた自分の子供を乗せて去っていった。夜間預かりもするらしい。朝の7時過ぎである。

この日は峠越えの山歩き道で「天雄関」と、道教寺院のある雲台山へ行った。昭化古鎮の「葭萌駅酒店」は連泊で、宿に戻ったのは夕方5時ごろだった。この晩は城内散策はしなかった。

翌日朝は添乗員の連絡で出発はゆっくりだとのこと。前日よく見ていなかった城内見物の時間を取ってくれた。そこで朝食の後、見損なった、「臨清門」と「昭化漢城博物館」へ行く。

「臨清門」は明代に建てられたという城門だ。現存のものはある程度修復したのであろう。門の上に登れるようになっていて、城壁を従えている。城壁は左右にそれぞれ数十メートル続いているが、途中まで行くと行き止まりとなっていた。復元はここまでか。

「昭化漢城博物館」は9時開門で、ちょっと早めに行ったらまだ閉まっていた。やっと開門となり中に入る。規模は大きくないが、墳墓などから発掘された遺物がいろいろあって、よく展示されていた。ただし説明の記載が「漢代・漢中」などと大雑把だった。

集合時刻となったので急ぎ足で宿に戻った。

（続く）

■参考: 百度百科

〈母と再会〉

万次郎は、帰国から2年後の1852年（嘉永5年）、やっと故郷の土佐に帰ることが出来た。

母親のしおは、お墓まで作っていた息子の万次郎が、25歳の立派な青年となって12年ぶりに目の前に現れ、奇跡の再会を果たす。

“会いたかったよ、おっかあ”、“ほんとに、おまえは万次郎かい!? よう戻って来たのう”、マザコンの万次郎と、しおの二人はしっかりと手を握り合った。

また、万次郎は土佐藩の藩主・山内豊重からも呼び出されて、アメリカの歴史、暮らしぶり、大統領選挙、海軍、捕鯨、アメリカ人の気質などを手に取るように判り易く話した。最下級の武士に取り立てられ、藩主から刀をプレゼントされた。

更に江戸幕府の御普請役格となり、20俵二人扶持、旗本直参となった。名字を名乗ることが許され、故郷の地名の『中浜』と姓を付けた。藩校の教授になり、後藤象二郎や岩崎弥太郎らを直接指導したほか、坂本龍馬ら幕末の志士達も万次郎の話の間接的に聞いて影響を受けたのである。

〈ペリー来航〉

万次郎が帰国して2年後の1853年6月、アメリカ東インド艦隊指令長官のマシュー・カルブレイス・ペリー提督が4隻の黒船を率いて浦賀沖に現れた。アメリカ大統領の親書を携え、開国を迫って空砲を鳴らし脅しをかけた。

♪泰平の 眠りを覚ます上喜撰 たった四杯で夜も寝られず という狂歌が歌われたように、てんやわんやの大騒ぎとなったが、ペリー一行は7月14日（嘉永六年六月九日）神奈川県横須賀市の久里浜に上陸した。

幕府内では、万次郎を英語の通訳にしようという考えもあったが、水戸藩主で、尊王攘夷派の徳川斉昭などに、万次郎は長く育てられたアメリカから非常に恩を受けているので、アメリカに有利なようにスパイを働くのではないか、アメリカの



艦隊の随行画家による「ペリー上陸」(横浜開港資料館蔵)

都合が良いように通訳するのではないかと疑われ、せっかく英語が出来るのにペリーに会わせることは無かった。

1854年（嘉永七年）に江戸幕府とアメリカ合衆国が締結した「日米和親条約」交渉では、結局、英語を用いず、オランダ語を仲介として日本語⇄オランダ語⇄英語と言う風に会話した。もし、万次郎が通訳していれば、交渉はもっとスムーズに行っていたのではないだろうか。

ともあれ、アメリカに下田と函館の2港を開港して、1639年から215年間続いた鎖国に終止符が打たれた。同じ1854年、27歳の万次郎は見合い結婚している。

〈随行船の咸臨丸〉

1858年には、日米修好通商条約（通称ハリス条約）が締結され、この批准書交換の為、1860年（万延元年）、使節団をポーハットン号でアメリカへ派遣したが、咸臨丸がその随行船となり、艦長・勝海舟（麟太郎）をはじめ、軍鑑奉行・木村摂津守や福沢諭吉らをはじめ、日本近海で遭難しアメリカへの帰国を希望していたジョン・M・ブルック海軍大尉を相談役にして、日米の水夫ら総勢およそ100人が乗り込んだ。

ブルック大尉は航海経験を買われ、案内役として咸臨丸に乗った。34歳の万次郎もこの咸臨丸に通訳として乗り込んだ。咸臨丸は、太平洋を横断してサンフランシスコまで行くのだが、外



鈴木勇次郎による「太平洋を行く咸臨丸」(ウィキペディア)

洋に出るや否や大波に揺られた。その為、乗っていた勝海舟、木村摂津守、諭吉、それに水夫達の殆どが船酔いで倒れてしまい、動きが出来なくなった。そんな中、船酔いもせず元気で立ち働いていたのが、万次郎とあと数人だけ。万次郎は、船の知識もあり、日米両国語が出来る訳で、ベテランのブルック大尉の嵐を乗り切る命令を聞き、それを日本人の水夫に伝えるなどして、船が転覆・沈没しないよう働いたのである。

咸臨丸から 100 年後、ブルック大尉の孫・ジョージ・ブルックが、“祖父ブルック大尉は、咸臨丸が無事に成功したのは、万次郎が乗っていたからで、万次郎を非常に尊敬していた”と言う手紙を万次郎の曾孫・中浜博氏に書いている。

咸臨丸がアメリカに向かった 1860 年(万延元年)、開国派だった井伊直弼大老が攘夷派の水戸藩浪士に襲われて暗殺される“桜田門外の変”が、また、1862 年(文久二年)には島津久光の行列に遭遇した騎馬のイギリス人たちを供回りの藩士たちが殺傷した“生麦事件”も起きており、日本はまだまだ封建的な情勢だった。

〈日米の懸け橋に〉

1870 年(明治 3 年)、44 歳の万次郎は、新政府による普仏戦争視察団としてヨーロッパへ派遣された。ニューヨークに滞在した時には、フェアヘブunに足を運び、恩人であるホイットフィールド船長と 20 年ぶりに再会を果たしている。

ホイットフィールド船長が、万次郎を我が子のように育て、学校まで行かせたのは、所謂キリスト教で言う「人間愛の実践」ではなかっただろうか。隣人愛を万次郎に教え、万次郎もホイットフィールド船長に対する恩を、直接船長に返すので

はなく、他の人にする事で、恩返ししようと考えたのではないだろうか。例えば、万次郎は、家の近くに乞食や行き倒れの人、病人が出ると、家人をやって食事を取らせたり、焚火で温めたり、あるいは薬をやったりして、面倒を見たという。勿論、家族を大事にして、家族を料理屋によく連れて行った。芝明神前の居酒屋「くるま屋」という所へ家族で出掛けて行き、料理屋で食べ残しがあると、それを包んで持ち帰り、乞食に配ったりしたという。座り込んで乞食と対等に話もした。

逆に身分の高い人、例えば幕府の高官に話す時でも、人間対人間として堂々と話をした。その話す態度が非常に良かったと言われている。従って、人々から“万次郎と言う人は不思議な人だ。乞食とも優しく話すし、大名とも卑屈にならず話す。”と言われたのだ。

アメリカで生活し、様々な人種と捕鯨船と共に過ごした万次郎は、自由と平等、民主主義思想を日本に持ち帰り、分け隔ての無い人と人との交わりを身に着けていたからではないだろうか。

“天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず”という福沢諭吉の名言を万次郎は、ごく自然に実行していたと言える。

〈悠々自適の老後〉

日米の経済摩擦など、ややっこしい問題が起きている現在、万次郎が生きていれば、日米友好の為に駆けずり回ったのではないかと、わりい誌の読者は思うでしょうが、そんなことはしないのが、万次郎なのです。万次郎は政治家ではなく、漁民であり、船乗りだったのだ。家族同士の暖かい家庭を作ると言う方に力を入れていただろう。万次郎は悠々自適の晩年を過ごした。うなぎが好物だったので、家族をどこかの料理屋に連れて行って、うなぎの蒲焼を食べながら、ニコニコしていたのではないだろうか。1898 年(明治三十一年) 11 月 12 日、71 歳で亡くなった。

最後に、私の短歌 2 首を万次郎にプレゼントします。 完

♪波かぶり 傾く船の 甲板に

頼もしきかな ジョン・マン立てり

♪乞食とも 大名といえど 隔てなく

諭吉の理想 言わで行なふ

みんなの広場

●麻生市民館サークル祭 2025 に参加

6月7日(土)～8日(日)の二日間、恒例の麻生市民館サークル祭が行われました。わんりいは8日午前の「ボイストレーニング公開講座」と午後の「水墨画教室」で参加しました。

★ボイストレーニング

元気滝刺とした Emme 先生のご指導で、まずストレッチで身体全体をほぐした後、大きな声を出しながら滑舌の練習、手足を使った脳トレなどをした後、いよいよ声を出していきます。腹筋を正しく使って声を出す事を習って、超低音から超高音まで身体全体を使ってお腹から声を出しました。その後、「手のひらを太陽に」を気持ち良く声を出して皆で歌いあげました。

25名ほどの方が参加され、皆さん楽しかった、気持ち良かったと満足されていました。



体の動きをつけながら「手のひらを太陽に」を皆で歌いました

★水墨画教室

午後の「水墨画教室」は13時の開始で、会場は昨年と同じ「第一会議室」でした。

講師の満柏画伯が、最初に代表的な画題である「四君子（蘭、菊、梅、竹）」のうちの「竹」の描き方を指導してくださいました。

参加者全員、水墨画は初めての方で、恐る恐る描き始めましたが、興が乗って来た様子で、新しい紙を追加しては筆を運んでいました。

「竹」の次は「菊」、「蘭」そして「梅」と進行し、それぞれの描き方の実演とポイントについての分かり易い解説に、皆さん大きく頷き、さらに熱心に取り



「竹」の次は「菊」の描き方の実演に熱い視線が注がれます

組まれていました。

各々のペースで描いた水墨画を画伯の所に持って行くと、簡単な講評とともに、ご自身の筆でちょいちょいと手を入れてくださいます。すると、あら不思議！ 見違えるほど味わいのある水墨画の出来上がりです。

参加したのは16人の方々と、用意した6人分の席は、入れ替わり立ち代わり、いつも満席状態で、休憩なしの充実した2時間でしたが、元気な子供の参加が見られなかったのには、ちょっと寂しさを覚えました。

◇満柏画伯の漢訳俳句◇

青きところ

白きところや

夏の海

高浜虚子

qīng bō bì hǎi lán tiān yuǎn

青波碧海蓝天远

bái làng fú yún xià rì gāo

白浪浮云夏日高

【わんりいの催し】

♪ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体のを抜いて気持ちよく発声しよう！
声は健康のバロメーター！！

*動きやすい服装でご参加ください。

- 会場：玉川学園コミュニティーC多目的室3
- 日時：7月 1日（火） 10：00～11：30
8月 5日（火） 10：00～11：30
- 講師：Emme [エメ]（歌手）
- 会費：2,000 円（講師謝礼・会場費）
- 定員：15 名（原則として）
- 申込：☎042-735-7187（鈴木）

~~~~~

### ∞∞わんりいの中国語勉強会∞∞

- 場所：鶴川市民センター
- 日時：毎週火曜日 14：00～16：00
- 講師：郁 唯（天津師範大学卒業）
- 会費：5000 円（会場費・講師謝礼）
- 定員：10 名（原則として）
- 申込：柳田 ☎090-4677-7793  
e-mail:yanagita\_hi@yahoo.co.jp



### ■定例会 代表宅

- ▼7月10日（木）13：45～
- ▼8月14日（木）13：45～

### ■‘わんりい’ 発送 三輪センター

- ▼8月号 休刊
- ▼9月号 未定

## ☆☆ 編集後記 ☆☆

7月は毎年、「梅雨明け十日」と言われる、梅雨明け直後にしばらく続く晴天を利用して、三日三晩、塩漬けの梅を外気に当てて、梅干を作る作業を楽しんでいます。それなのに、今年は梅雨入りして4～5日で夏のように暑い日が続き、梅漬けの天日干しに適した陽気になりました。しかし、梅雨前線が北にあり、未だ南下する気配があるので、梅雨明けは暫く先、と言われていました。それが何と、6月27日に近畿地方までの西日本は梅雨明けが発表されました。6月中に梅雨明けとは、観測史上最速だそうです。同時に、6月に夏日が十日以上出現するのも初めてのことだそうです。厳しい夏が予想されますが、動植物には既に異変が現れているようですよ。今年はどうな夏になるのでしょうか。

~~~~~

‘わんりい’は、新入会をいつでも歓迎いたします

年会費：1800 円、入会金なし

郵便局振替口座:00180-5-134011 わんりい

10月以降の入会は、当年度会費 1000 円

■問合せ：044-986-4195（寺西）

‘わんりい’ 305 号の主な目次

- 「中国薬膳の特徴」(2) 2
- 「中原雑感」(53) 鄭州・安陽一人旅（続5） .. 3
- 晩秋のカラコルムにて (6) 5
- 梁祝の話 7
- 私の心に残る旅⑨
- 「シルクロードの探検」(その2) .. 9
- 蜀の古道 (2) 昭化古鎮 11
- 「ジョン・マンと呼ばれた男」(2) 13
- みんなの広場 15
- ‘わんりい’ の催し・お知らせ 16